

平成 30 年 6 月 19 日現在

機関番号：34316

研究種目：基盤研究(A) (一般)

研究期間：2015～2017

課題番号：15H01855

研究課題名(和文) 新たなガバナンス論構築のためのアジア研究とアジア型国際関係論による共同研究

研究課題名(英文) A Collaborative Research of Asian Studies and Asian IR for a New Governance Theories

研究代表者

清水 耕介 (Shimizu, Kosuke)

龍谷大学・国際学部・教授

研究者番号：70310703

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 28,200,000円

研究成果の概要(和文)：本研究は主として地域研究に蓄積された紛争和解のノウハウをもとに、新たな国際関係理論構築のための基礎研究を行うものであった。本研究では毎年国際シンポジウムを開催し、研究を深めた。しかし、理論構築自体はまだ不十分であり、さらなる研究の継続が必要とされる。これは地域研究に蓄積された知が国際関係の理論構築になかなか繋がらないという問題のためである。ここで重要になってきたのは、基礎的な存在論的概念の再検討であり、具体的には時間、空間、言語、等の概念について詳しく検討していく必要性が明らかとなった。具体的な研究成果としては、イギリスRoutledge社から編集本の刊行を行う予定である(契約済)。

研究成果の概要(英文)：This research project aimed at developing a new International Relations theory (IRT) by adopting the accumulated knowledge of regional studies. We organized an international symposium every year. However, construction of new IRT has not been completed yet after the period of research. This was mainly because of the difficulty we encounter in the theorization process, and we presume a continuous effort is essential in order to accomplish the initial purpose. What seems imperative in this context is some philosophical concepts including time, space, language, and so forth, and it became evident a further research on these concepts are prerequisite for linking regional studies and IRT. Concrete research outcome is an edited volume forthcoming from Routledge.

研究分野：国際関係

キーワード：国際関係 非西洋型国際関係理論 ガバナンス 時間 倫理

1. 研究開始当初の背景

現代の国際関係の理論的な展開として日西洋型理論が注目を集めていた。その中でアジア研究の知見と国際関係が十分ではなかったことから、本研究の着想に至った。

2. 研究の目的

本研究ではアジア研究の知見を非西洋型国際関係論(特にアジア型国際関係論)と結びつけ、これまで乖離して来た二つの知的潮流を統合して、新たな学際的視点を導出し、それを基にアジアのガバナンス(合意形成に基づく秩序構築)に関する枠組構築を行うとともに、その研究成果を海外に向けて発信することを目的とする。そのために、1. 現在のアジアのカバナンス論の問題点等を再確認し、2. アジア研究に蓄積されてきた知見をアジア型国際関係論の枠組みに反映させながら、新たなアジアのガバナンス論を構築するとともに、3.その研究成果を国内外に向けて発表する。中国やインドの台頭に代表されるように急速に変化するアジアにおけるガバナンス論構築は喫緊の課題であり、その意味でアジアの視点に焦点を合わせる本研究は大きな意義を持つと考えられる。

3. 研究の方法

研究の展開は、概ね4つのステップで示される。すなわちA)現状のガバナンス論の問題点の明確化、B) アジア研究と国際関係論の乖離の原因の明確化と解消、C) アジア研究と国際関係論との共通認識の構築、D) その共通認識に基づくガバナンス論の構築と海外に向けた発表である。その中でも共通認識の構築は最も難しいと考えられることから、これまで非西洋的な視点から展開されてきた理論(朝貢体制論やマンダラ論等)を分析し、そこに埋め込まれた知見を通して新たなガバナンス論を構築する。この4つのステップを確実にするためには研究員同士の緊密な連携と対話が必要であり、そのために定期的に研究会を開催する。さらに2年目以降は年1回、国際的なシンポジウムを開催し、国内外に向けて研究成果を発信する。

4. 研究成果

本研究は主として地域研究に蓄積された紛争和解のノウハウをもとに、新たな国際関係理論構築のための基礎研究を行うものである。その研究体制は地域研究の研究者と国際関係理論の研究者とがおおよそ半々という形を取っている。H27年度および28年度は両者の対話を継続して行ったが、H29年度は主として研究全体のとりまとめを行った。研究会は京都で3回開催し、地域研究と国際関係の橋渡しを通じた理論構築の可能性につい

て議論を深めた。しかしながら、理論構築自体はまだ不十分であり、さらなる研究の継続が必要とされる。これは地域研究に蓄積された知が国際関係の理論構築になかなか繋がらないという問題のためであり、国際関係理論側の更なる研究が必要とされることは明らかである。ここで重要になってきたのは、基礎的な存在論的概念の再検討であり、具体的には時間、空間、言語、等の概念について詳しく検討していく必要性が明らかとなった。具体的な研究成果としては、H27年度および28年度に行ったシンポジウムの原稿をもとにイギリスRoutledge社から編集本の刊行を行う予定であるが(契約済)、29年度においては出版予定の論文に加筆・修正を加えた。また29年度においてもTime and Ethicsと題して国際シンポジウムを行い、その研究成果はRoutledge社から出版するための準備を行った。しかしながら、これらの研究自体はまだ不十分であることは否定できない。今後、特に国際関係理論側の更なる研究が必要とされる。

5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

[雑誌論文](計58件)

1. Kosuke Shimizu (2018), 'Do Time and Language Matter in IR?: Nishida Kitaro's non-Western discourse of philosophy and politics', *Korean Journal of International Studies*, 16(1), 99-119, 査読有, 2018
DOI:10.14731/kjis.2018.04.1.99
2. Kosuke Shimizu (2018), 'The Genealogy of Culturalist International Relations in Japan and Its Implications for Post-Western Discourse', *All Azimuth* 査読有, 7(1) 121-136.
DOI:10.20991/a;azimuth.3269
3. Kosuke Shimizu (2017), 'Reflection, the Public, and the Modern Machine: An Investigation of the Fukushima Disaster in Relation to the Concepts of Truth and Morality', *Japanese Journal of Political Science*, 査読有, 18(4) 536-551.
DOI:10.1017/S1468109917000160
4. 松島泰勝 「琉球独立の分岐点としての改憲」『アジェンダ』2017年(第59号)26-33頁、査読無
5. 松島泰勝、「生死を超えた琉球人搾取をどのように乗り越えるか」『月刊琉球』2018年(3月号)2-11頁、査読無
6. 李修京「多文化社会の中の人権(Human Rights in a Multicultural Society)」『法と人権教育研究(Journal of Human Rights & Law-Relates Education)』、2017年、10-3、pp.1~23。(依頼原稿) 査読無
7. 李修京「雑誌『文友』と宋夢奎(ソンモンギョ)・尹東柱(ユンドンジュ)の誕生100周年、そして日本の現在」『鶴山文学』通巻第

- 96号、2017年、pp.37~60。(依頼原稿) 査読無
8. 李修京「在日本大韓国民団地方本部・支部の活性化と次世代教育」『2017 世界韓人学術大会(Global Korean Convention 2017)』,2017年、pp.13~32、査読無
 9. 李修京「在日韓国人の民族教育考察—glocal citizenship 教育による次世代育成」『第94回 国際学術大会 東アジアのマイノリティーと日本教育』第94集、2017年、pp.215~223、査読無
 10. 李修京「日本の多文化共生社会化への先駆け・在日女性たちの戦後の生き様(下) : 東京韓国学校の教師として43年・李和枝」『東京学芸大学紀要 人文社会科学系』(第68集) 2017年、pp.97~110、査読無
 11. 李修京、城渚紗、廣瀬龍「韓日における多文化社会への変化と国防」『東京学芸大学紀要 人文社会科学系』(第68集) 2017年、pp.111~122、査読無
 12. 青木恵理子「生(せい)の芸術: 知的障がい者による創作についての一試論」『龍谷大学社会学部学会紀要』2017年、第50号: 1-17、査読無
 13. 青木恵理子「布とフェティシズム—インドネシア・東サテンガラ州の緋織の考察をとおして」(2013年度版改定) 田中雅一編『侵犯する身体 フェティシズム研究3』2017年、京都大学学術出版会、査読無
 14. 青木恵理子「序論」青木恵理子編著『女たちの翼: アジア初期近代における女のリテラシーと境界侵犯的活動』2018年、ナカニシヤ出版、1-14、査読無
 15. 青木恵理子「何が聖女を飛翔させたのか?: 19世紀末から20世紀初めのフローレス島におけるカトリック修道女の活動」青木恵理子編著『女たちの翼: アジア初期近代における女のリテラシーと境界侵犯的活動』2018年、ナカニシヤ出版、199-235、査読無
 16. 青木恵理子「近代を問う: 日本の炭鉱が開く文化人類学的探究の可能性」『龍谷大学社会学部学会紀要』2017年、第52号、11-23、査読無
<https://opac.ryukoku.ac.jp/webopac/TD32055733>
 17. 脇村幸平、「南北問題」再考 - 経済格差のグローバル・ヒストリー」『経済学雑誌』第118巻、2018年第3・4号、21-41ページ、査読無。
 18. 石坂晋哉、インド文化事典編集委員会編『インド文化事典』2018年、丸善出版、総ページ数770頁(執筆担当箇所: 石坂晋哉「ガーデンの平和運動(284-285頁)」、石坂晋哉「環境と社会(294-295頁)」、石坂晋哉「汚職撲滅運動(296-297頁)」) 査読無
 19. 石坂晋哉編(著者: 石坂晋哉、佐々木真)『Natural Farming Today 1 (GLOCAS series2)』愛媛大学リサーチユニット「グローバル地域研究」, 2018年、総ページ数28頁、査読無
 20. 瀧下武志、「グローバルスタディの視点からの華僑華人研究に向けて」長崎大学多文化社会学部『多文化社会研究』2018年、Volume 4, pp.105-117、査読無、
<http://hdl.handle.net/10069/38000>

〔学会発表〕(計133件)

1. Kosuke Shimizu, 'From the Margins of Nation-State to the Forefront of an Asia-Pacific Century? Okinawa-Taiwan Narratives and Counter-Narratives Revisited', The Power of Narratives in East Asian International Relations Stockholm University, 2017年12月7日 [招待有]
2. 清水耕介、「日常性の国際政治」、日本国際政治学会、2017年10月27日、神戸国際会議場
3. Kosuke Shimizu, 'Subjectivity, Time and Language: Nishida Kitaro's tragic story of philosophy and politics in non-Western discourse', Glocal IR Knowledge Production and IR Scholarship in/of East Asia Today 2017年9月22日, Yonsei University [招待有]
4. Kosuke Shimizu, 'Buddhism, Politics, and Cosmology: Writing world affairs with temporality', ICAS 10 2017年7月21日, Chieng-Mai, 審査有
5. Kosuke Shimizu, 'The Question of Ontology and Time in Korea-Japan Relations: in the case of the 'Comfort Women' issue', ISA Hong Kong 2017年6月16日, Hong Kong City University, 審査有
6. Kosuke Shimizu, 'Buddhism, Politics, and Cosmology: Writing world affairs with temporality' the World Congress for Korean Politics and Society 2017年6月23日, Seoul, [招待有]
7. Kosuke Shimizu, 'The Genealogy of Culturalist International Relations in Japan', NAJS 2017年5月18日, Stockholm University, [基調講演、招待有]
8. Kosuke Shimizu, 'Temporalising the Space-oriented Discipline: A Challenge with the Kyoto School Philosophy', Fifth Global International Studies Conference 2017年4月 World International Studies Congress, Taipei, 審査有
9. Kosuke Shimizu 'Reconciliation and HIStory: from IR to Dialogue for Mutual Understanding', Fifth Global International Studies Conference 2017年4月 World International Studies Congress, Taipei, 審査有
10. 松島泰勝、「琉球人の過去は誰のものか—学知の植民地主義批判」日本オセアニア学会創設40周年記念公開シンポジウム、2018年3月21日 沖縄県立博物館にて
11. 松島泰勝、「琉球独立の歴史的背景と将来像」県立広島大学上水流研究室主催「世界の独立運動を語る—琉球、スコットランド、カタール—ニヤ、台湾」2018年3月17日 サテライトキャンパス広島にて
12. 松島泰勝、「琉球人の生死を貫く日帝植民地主義」東アジア共同体・沖縄(琉球)研究会第11回オープンシンポジウム 2018年1月27日 琉球大学にて
13. 松島泰勝、「琉球人遺骨問題にみる日帝植民地主義の過去と現代」東アジア共同体沖縄

- (琉球)研究会第 10 回公開シンポジウム
2017 年 12 月 16 日 龍谷大学にて
- 14 松島泰勝、「琉球独立の今日的意味」愛知県立大学公開講座「地域から国民国家を問い直す」2017 年 12 月 9 日 愛知県立大学にて
- 15 松島泰勝、「なぜ「県外移設」を求めるのか—日帝植民地主義批判」日本平和学会 2017 年度秋期研究集会 2017 年 11 月 26 日 高知大学にて
- 16 松島泰勝、「日本植民地主義に抗う百按司墓琉球人遺骨返還運動」琉球民族独立総合研究学会オープンシンポジウム 2017 年 10 月 22 日 沖縄国際大学にて
- 17 Yasukatsu Matsushima, "The Conflict between Indigenous Traditional Knowledge and Modern Colonial Knowledge regarding the Restoration of Lew Chewans' Bones to Their Own Islands"
- 18 Yasukatsu Matsushima, International Workshop: Rethinking Interaction between Indigenous Traditional Knowledge and Modern Knowledge 2017 年 10 月 15 日 龍谷大学にて
- 19 Takashi Inoguchi, 'Asian Consortium for Political Research Annual Meeting for Asian Journal of Comparative Politics' (2018 年 3 月 2~3 日・於東京) 発表課題: Wilsonian Moment Writ Large: Japan 1912-1952
- 20 青木恵理子 2017.5.27 「炭鉱の記憶と関西三池炭鉱閉山 20 年展」における表象 representation / 再置 re-presentation」日本文化人類学会第 50 回研究大会 @神戸大学
- 21 青木恵理子 2017.11.11 「「あなたたち」と「かれら」についての語り：インドネシア・フローレス島の「歴史」における政治と倫理」国立民族学博物館共同研究『政治的分類—被支配者の視点からエスニシティと人種を再考する』（研究代表者 太田好信）@国立民族学博物館
- 22 Ching-Chang Chen with Kosuke Shimizu. "Struggling for Peace "Below" the Nation-State: Okinawa-Taiwan Relations Revisited." Paper presented at the WISC Fifth Global International Studies Conference, Taipei, Taiwan, 1-3 April, 2017、審査有
- 23 Ching-Chang Chen with Hitomi Koyama. "Whose National Game? Understanding the Controversy over the Film KANO (2014) and the Identity Politics of Baseball in Taiwan." Paper presented at the WISC Fifth Global International Studies Conference, Taipei, Taiwan, 1-3 April, 2017、審査有
- 24 Ching-Chang Chen with Kosuke Shimizu. "From the Margins of Nation-State to the Forefront of an Asia-Pacific Century? Okinawa-Taiwan Relations Revisited." Paper presented at the ISA International Conference, Hong Kong, 15-17 June, 2017、審査有
- 25 Ching-Chang Chen with Kayla Wong. "Rethinking Alternative Models of Democracy: The Case of Singapore." Paper presented at the KPSA World Congress for Korean Politics and Society, Seoul, Korea, June 22-24, 2017、審査有
- 26 Ching-Chang Chen, "To Be or Not to Be 'Chinese'? Understanding Taiwan's Inconsistent Involvement in China's Maritime Disputes in East Asia." Paper presented at the 10th International Convention of Asia Scholars (ICAS 10), Chiang Mai, Thailand, 20-23 July, 2017、審査有
- 27 Ching-Chang Chen, "The Challenges and Possibilities of a Post-Western IR studies in Japan." Paper presented at the Yonsei Conference on IR theory development in Northeast Asia, Seoul, Korea, 8-9 September, 2017、審査有
- 28 Ching-Chang Chen, "Gas Them! The Chemical Weapons Taboo, Sino-Japanese War, and Western Norm Diffusion outside the West." Paper presented at the 15th Asia Pacific Conference, Beppu, Japan, 11-12 November, 2017、審査有
- 29 Ching-Chang Chen with Hitomi Koyama. "Whose National Game? KANO, the Baseball Film, and (Post)colonial Taiwanese Identity." Paper presented at the Sizihwan International Conference on Asia-Pacific Studies, Kaohsiung, Taiwan, 30 November-2 December, 2017、審査有
- 30 脇村幸平 「19 世紀熱帯アジアにおける一次産品輸出と労働供給 - 「要素交易条件」論・再考」2017 年度第 86 回社会経済史学会・全国大会、慶應義塾大学三田キャンパス、2017 年 5 月 27 日。
- 31 Satoko Nakane (2017) "A Subsidiary Body of the Government or A Change Maker of the Society?— The Controversial Relationship of Civil Society with the Government of India", Oral presentation, International Seminar on Governance for the Margins, Institute for Development and Communication, India, 05/02/2018
- 32 Satoko Nakane (2017) "Child Marriage in South Asia: An Act of Gender-Based Violence", Oral presentation, Women in Asia Conference 2017, The University of Western Australia, Australia, 28/09/2017、審査有
- 33 Satoko Nakane (2017) "School by Day, Shelter by Night: Education For and Through Human Rights", Oral presentation, The International Symposium on Strengthening Peace through Education, Crowne Plaza Hotel Nagasaki, Japan, 10/08/2017、審査有
- 34 Akio Tanabe "Anti-Racism and Spiritual Universalism: Connection and Diversion of Transnational Nationalisms of Japan and India in the Late Nineteenth and Early Twentieth Centuries" at International Seminar on Race and Racism, at École des Hautes Études en Sciences Sociales, Paris, 12-13 March 2018、審査有
- 35 Akio Tanabe "Is there a South Asian path

- of development? Comparative attempts on shapes of Asia” Invited presentation at “Shaping Asia/s Connectivities, Comparisons, Collaborations” Workshop at the Centre for Interdisciplinary Research, Bielefeld University, Germany, 6-7 February 2018、審査有
- 36 Akio Tanabe “Forms of Racialization in Odisha, India: Projecting Anxieties of Globalization onto the Marginalized” 116th Annual Meeting of American Anthropological Association, Marriot Wardman Park Hotel, Washington D.C., 2nd December 2017、審査有
- 37 Akio Tanabe “Genealogies of ‘Paika Rebellion’: Heterogeneities and Linkages” Invited Key Speaker at National History Symposium “Paika Rebellion: A Forgotten Era of Indian Freedom Struggle”, India International Centre, New Delhi, 21-22 October 2017.
- 38 Akio Tanabe, “Vernacular Democracy and Politics of Relationships: A Subalternate Perspective on Contemporary India”, Department of Political Science, University of Calcutta, 5 September 2017.
- 39 Akio Tanabe, “Locating Odisha and Japan in the World” Invited Chief Speaker at University Seminar, Utkal University, Bhubaneswar, Odisha, India, 3 August 2017.
- 40 Jun Honna, “Pilkada DKI and the Politics of Right-Wing Network Populism,” Seminar: Rise of New Politics in Indonesia: the 2017 Jakarta gubernatorial Election, Center for Southeast Asian Studies, Kyoto University, 12 May 2017.
- 41 本名純, 「民主化定着期インドネシアにみるナショナリズムとグローバリズムの国軍政治」2017年度日本比較政治学会、成蹊大学、2017年6月17日。
- 42 本名純, 「ポスト紛争期ボスニア・ヘルツェゴビナとポスト権威主義期東南アジアにおける治安部門改革」地域紛争研究会 2017年度第3回例会、同志社大学、2017年11月12日。
- 43 Shinya Ishizaka, “Beliefs and Movement: On the Misapprehensions of “Hindu” Elements in the Anti-Tehri Dam Movement”, International Convention of Asia Scholars, 2017、審査有
- 44 Shinya Ishizaka, “Natural Farming Movement”, Sevagram International Conference on Non-violent Economy and Peaceful World, 2017、審査有
- 45 HAMASHITA, Takeshi. 2017. “GIS database for Chinese Maritime Custom history ---New stage of Chinese Socio-economic history studies”, The 6th Asian Network of GIS-based Historical Studies (ANGIS) Conference, 23-25 November, 2017 at Sun Yat-sen University, Guangzhou, China.(基調報告・招待講演)
- [図書](計53件)
- 1 松島泰勝、金城実、『琉球独立は可能か』解
- 放出版社、2018年2月 310ページ
- 2 松島泰勝「新たなアジア型国際県警における琉球独立」、木村朗・前田朗編『ヘイト・クライムと植民地主義』、261-279頁、三一書房 2018年2月
- 3 松島泰勝「アジア独立運動における琉球人の主体的役割とその意味」、進藤栄一・木村朗編『中国・北朝鮮脅威論を超えて』 268-286頁、耕文社 2017年10月
- 4 鳩山友起夫、大田昌秀、松島泰勝、木村朗編著『沖縄謀反』、かもがわ出版 2017年8月 272ページ
- 5 松島泰勝「東亜視野下の琉球経済」、林泉忠編著『21世紀視野下の琉球研究』52-77頁、海峡学術出版社 2017年4月
- 6 山根健至「フィリピンの紛争と再編される安全保障の協働関係」足立研幾編著『セキュリティ・ガバナンス論の脱西欧化と再構築』ミネルヴァ書房、2018年、pp. 177-203.
- 7 池田丈佑「近代日本における超国家思想：世界国家、世界社会、世界政府」、大庭弘継(編)『超国家権力の探究：その可能性と脆弱性』(南山大学社会倫理研究所、2017年) 第6章所収(139-155頁)。
- 8 李修京、権五定、金泰基、金雄基、李ミンホ『在日同胞民族教育実態の深化調査及び政策方向提示』韓国、在外同胞財団、pp. i~65, 353~478.
- 9 Takashi Inoguchi, *Exit, Voice and Loyalty in Asia : Individual Choice under 32 Asian Societal Umbrellas*, Springer, 2017, ISBN: 978-981-10-4722-0, DOI: 10.1007/978-981-10-4724-4
- 10 青木恵理子編著 2018『女たちの翼：アジア初期近代における女のリテラシーと境界侵犯的活動』ナカニシヤ出版、252ページ
- 11 Chen, Ching-Chang. (2017) “The Diaoyutai/Senkaku Islands Dispute: An Ethos of Appropriateness and China’s ‘Loss’ of Ryukyu.” In *Decolonizing “Asia”? Unlearning Colonial/Imperial Power Relations*, edited by Pinar Bilgin and L.H.M. Ling, 74-84. London: Routledge.
- 12 Chen, Ching-Chang. (2017) “Taiwan’s Inconsistent Involvement in China’s Maritime Disputes under the ‘One China’ Institution.” In *Institutional Evolution in the Asia Pacific: Security-Economic Nexus*, edited by Utpal Vyas, Steven B. Rothman and Yoichiro Sato, 75-92. London: Routledge.
- 13 加藤剛「小農によるアブラヤシ栽培の受容をめぐって—ゴム栽培との比較から考える—」林田秀樹編『東南アジアのアブラヤシ小農と農園企業—グローバル化に伴う行動様式変化とその影響—』2018.3、晃洋書房、pp. 244-270.
- 14 加藤剛「小農アブラヤシ栽培の発展の軌跡—国営農園会社プラスマ入植者の事例から—」林田秀樹編『東南アジアのアブラヤシ小農と農園企業—グローバル化に伴う行動様式変化とその影響—』2018.3、晃洋書房、pp. 271-299.
- 15 佐藤史郎・上野友也・松村博行、『はじめての政治学〔第二版〕』法律文化社 2017年4月 149頁
- 16 中根智子(2018)「インドにおける子どもの権利・貧困・エンパワーメント」高満也編『変

- 貌と伝統の現代インド—アンベードカルの
仏教改宗とダルマの再定義』法蔵館（2018
年3月刊行予定・頁数未定）
- 17 Tanabe, Akio. 2018. "Spirituality as the
Source of Human Creativity: Insights from
India." In *The Kyoto Manifesto for Global
Economics: The Platform of Community,
Humanity, and Spirituality*, edited by
Stomu Yamash'ta, Tadashi Yagi and
Stephen Hill, 179-193. Singapore:
Springer.
- 18 田辺明生 2018年「幸福追求の支えとして
のダルマ—秩序の再構築過程に注目して」
嵩満也編『変貌と伝統の現代インド—アン
ベードカルと再定義されるダルマ』法蔵館
255-276頁。
- 19 Tanabe, Akio. 2017. "Conditions of
'Developmental Democracy: New Logic of
Inclusion and Exclusion in Globalizing
India", Minoru Mio, Abhijit Dasgupta eds
*Rethinking Social Exclusion in India:
Castes, Communities and the State*.
London: Routledge, pp. 11-29.
- 20 Jun Honna, "The Politics of Securing
Khaki Capitalism in Democratizing
Indonesia," in Paul Chambers and Napisa
Waitookiat eds., *Khaki Capital: The
Political Economy of the Military in
Southeast Asia* (Copenhagen: Nordic
Institute of Asian Studies, 2017)
pp.305-327
- 21 Jun Honna, "Japan's Post-Cold War
Foreign Policy toward Indonesia," in
James D.J. Brown and Jeff Kingston eds.,
Japan's Foreign Relations in Asia (London:
Routledge 2017), pp.262-275. ISBN
9781138055452
- 22 HAMASHITA, Takeshi. 2017. "Competing
Area Studies between United States and
Great Britain in Hong Kong and Singapore
during the Cold War" T. Loschke et al ed.
*Regional Studies / Area Studies in East and
West* (provisional). Leipzig University
Press. (査読有、掲載決定)

[その他]

学会・シンポジウム開催

1. The Third Afrasian International
Symposium: Time, Ethics and Global
Affairs, 龍谷大学、2018年1月20日

6. 研究組織

(1) 研究代表者

清水耕介 (SHIMIZU, Kosuke)
龍谷大学・国際学部・教授
研究者番号: 70310703

(2) 研究分担者

本名純 (HONNA Jun)
立命館大学・国際関係学部・教授
研究者番号: 10330010

李修京 (LEE, Sugyon)
東京学芸大学・教育学部・教授
研究者番号: 10336927

山根健至 (YAMANE, Takeshi)
福岡女子大学・国際文理学部・准教授
研究者番号: 10522188

松島泰勝 (MATSUSHIMA, Yasukatsu)
龍谷大学・経済学部・教授
研究者番号: 20349335

中根智子 (NAKANE, Satoko)
龍谷大学・国際学部・講師
研究者番号: 20509351

石坂晋哉 (ISHIZAKA, Shinya)
愛媛大学・法文学部・准教授
研究者番号: 20525068

猪口孝 (INOBUCHI, Takashi)
桜美林大学・総合研究機構・特別招聘教授
研究者番号: 30053698

脇村孝平 (WAKIMURA, Kohei)
大阪市立大学・大学院経済学研究科・教授
研究者番号: 30230931

田辺明生 (TANABE, Akio)
東京大学・大学院総合文化研究科・教授
研究者番号: 30262215

青木恵理子 (AOKI, Eriko)
龍谷大学・社会学部・教授
研究者番号: 40180244

佐藤史郎 (SATO, Shiro)
大阪国際大学・国際コミュニケーション学部・
准教授
研究者番号: 40454532

シャーニー、ジョージアンドレア
(Giorgioandrea Shani)
国際基督教大学・教養学部・教授
研究者番号: 40569993

池田丈佑 (IKEDA, Josuke)
富山大学・人間発達科学部・准教授
研究者番号: 50516771

陳慶昌 (CHEN, Ching-Chang)
龍谷大学・国際学部・准教授
研究者番号: 50569788

加藤剛 (KATO, Tsuyoshi)
東洋大学・アジア文化研究所・客員研究員
研究者番号: 60127066

濱下武志 (HAMASHITA, Takeshi)
龍谷大学・アフラシア多文化社会研究センター・
研究フェロー
研究者番号: 90126368